

令和7年度 目黒日本大学幼稚園 自己評価票

〔本園の目指す幼稚園像〕

本園は児童樂園として開園以来、子どもたちの自発的活動に重きをおく自発主義を理想としてきた。本園の第一義的役割は、子どもたちが人格形成の基盤となる幼児期に、一人ひとりの持つ個性を伸ばしながら、目まぐるしく変動する社会の変化に適應できるよう、様々な知識を深めつつ、心豊かにバランスの取れた育ちへと導くことである。

〔本園の特長〕

- ・様々な体験活動を通して豊かな感性を育む。
- ・人や物、環境に関わりながら好きな遊びに取り組み、質の高い幼児教育を心掛ける。

〔本園の課題〕

- ・一人ひとりの発達と育ちの現状を捉えた上で、その学年だけでなく、今後の成長を考えたカリキュラムや保育の環境を整える。また、それに対応できる保育力を高めていくことに努める。
- ・少子化に伴い地域の未就園児数が減少する中、本園では教育内容を見直し、預かり保育や課外教室などを充実させ新入園児の減少を抑える。

令和7年度の取組結果

〔概況〕

昨年度定員を割る人数でのスタートとなってしまったが、昨年度中の広報活動の見直しにより、3歳児は定員の70名スタートとなった。1クラス35名は保護者からは教員数が少ないのではと不安視される意見をいただいたが、1クラス2名体制に加え、4月と5月は、園児が園生活に慣れるまで、預かり保育担当教諭や園長、副園長もクラス活動に補助として入り、以降も必要な状況に応じて補助を入れていった。担任が園児の状況を良く把握し保護者との連絡を細かく行い信頼関係が上手く築けていたことにより、年度の後半には大人数ではあったが、安心して預けられているという評価をいただいた。

保育活動では、従来の製作や運動、音楽活動だけではなく、自由遊び中の子どもの育ちを改めて注視し、園児の興味ある内容を活動に取り入れるなど、柔軟にクラス活動を行っていった。その半面、デジタル教育についてはタブレットをクラス単位で扱う活動を本格的にスタートさせたが、まだ子どもたちが自由に使えるまで至っていないので、教員研修などを実施することで指導力向上に努めたい。

家庭支援の面では引き続き、8時から8時30分までの早朝預かり保育、18時30分までの通常預かり保育、週2回の給食を実施した。預かり保育については早朝、通常とも利用人数が増え、長時間や毎日利用する子どもも多くなった。子どもにとって大事な時間の大部分を園で過ごしていることを踏まえ、預かり保育中であっても、ただ預かるだけではなく、学びのある時間を提供できるよう、日々内容の検討を重ねて行きたい。

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
保育の計画性	週反省を通してクラスの状況を共有することで、実際の様子を考慮し園児の好きなものや興味あるものを見極め、適切な環境、素材、アイディアを提供できるように柔軟に計画を立てた。また、予め決まっているものについては、長期休暇中に計画や準備を進めることで、通常期にゆとりを持って対応した。 必要に応じて絵本や写真、実物などを準備し、園児の興味関心を更に引き立たせるようにした。 デジタル教育については、年中組のタブレット活動が初年度であったこともあり、従来から行っていた活動へ自然と入れ込むことができていなかったため、予め長期的な計画の中で考えていく必要があると感じた。	B

保育の在り方 幼児への対応	園児の発達面や個人差を意識しながら援助や声掛けを行った。また体調面や抱えている問題などの配慮事項を、学年だけでなく教職員全員に周知するなどの協力体制を取ったことで、他クラスの園児であっても状況を踏まえた関わり方や、担任への情報共有を行うことができた。 園児同士も様々な友だちと関わり、互いの個性を認め合えるように仲介や助言をしたり、協力できるような活動を設けたりし、園生活を進められるようにした。 一人ひとりの気持ちや状況に寄り添い受け入れる姿勢は大切にしながら、クラス運営として、達成目標に近づけるための指導計画を都度検討していった。	A
保育者としての資質 や能力・良識・適正	学年ごとの週反省や指導計画の際は、状況を踏まえた上で話し合いを進めている。個人個人で積極的に情報を収集するには限度があるため、保育専門誌を購入し、園全体の現状で特に必要な箇所を重点的に教員間で周知したり、夏季休業中の時間を利用し、外部研修に参加したりし、新しい情報を取り入れる機会を設けた。また外部研修で知り得た情報は資料とともに教職員間で共有できるようにした。 しかし、目黒区研究会も Zoom での実施であり、他園の様子を生で聞く機会が圧倒的に少ないため、園の現状に必要と思われる情報にアンテナを張り意識的に取り入れる必要がある。	B
保護者への対応	怪我の報告だけでなく、新しく挑戦したことやできるようになったことなど積極的に様子を伝え、通園バス利用などで直接顔を合わせる事が少ない保護者については、意識的に連絡を取るよう心掛け、安心感を持ってもらえるようにした。 特に電話でのやり取りの際は、こちらの意図との相違や誤解が生じないよう、保護者の話を注意深く聞き、相手に分かりやすく伝えられているかに気を付けるようにした。また、保護者からの意見、質問に対し、内容によってはすぐに回答せず、主任や園長、副園長にも助言を仰ぎ、適切に返答できるよう努めた。保護者の中には相談事を躊躇してしまう方もいるため、些細なことであっても保護者から相談しやすい雰囲気づくりを、全教職員で進めていきたい。	A
家庭支援	昨年度に引き続き、通常預かり保育を 18 時 30 分まで、早朝預かり保育を 8 時から 8 時 30 分までの間で実施したが、利用人数は徐々に増加している。並行してベビーシッターや施設スタッフ等が送迎に来ることが多くなったが、園として保護者以外の方の送迎に対して確認事項や約束事を明確化したことによって、混乱なく引き渡しができていた。 課外教室について「体操」「ダンス」「幼児教室入学準備コース」「幼児教室国立受験コース」を新設した。引き続き、預かり保育との相互利用ができるため、遅い時間まで預かり保育にいる園児も、課外教室で気持ちを切り替えて活動に取り組む姿が見られていた。共働き世帯にとっては平日の習い事に複数の選択肢があることで、休みの日を親子の時間として過ごせている様子が伺えた。 また、給食については変更なく週 2 回実施しているが、保護者の中には「回数を増やしてほしい」という声もある。同時に「適正な回数である」「好きなものを入れられるお弁当の日も必要」という声も多くあるため、当面の間は変更の予定はないが、適宜アンケートにご協力いただきながら検討していきたい。	A
地域の自然や社会と のかかわり	例年実施していた目黒不動尊での年長組のさつまいもの苗植えと収穫体験は、先方の都合により今年度から実施しないことになった。しかし、敷地を散歩させていただくことで、ご住職との交流や境内の自然に直接触れる機会は設けることができた。 また年長組はじゃがいも掘り、年中組はさつまいも掘りを粕江園芸で実施した。また、学年毎の遠足では、動物園や水族館に行くこともあったが、引き続き外でのマナー等をしっかり伝えていく必要があると感じた。 園外の方とかかわるという経験はできたが、さらに「地域の中の幼稚園」であることを踏まえた活動についても検討したい。	B
保健衛生	子どもたちへの手洗いうがい指導や、日常の清掃に加え定期的な消毒等を行い、	B

	子どもの触れるものの衛生面に気を付けた。また、体調を崩さないための方法などを園児に伝える時間を設けたり、夏場は熱中症対策として遊ぶ時間や場所にも気を付けたりする対策を取った。 どのような場面で怪我になりやすいか子どもたちと話し合う機会も設けたが、遊んでいる最中に楽しくなり激しい行動になってしまったり、危険な遊び方をしてしまったりすることで怪我に繋がる場面が見られたので、その状況にいち早く気が付けるよう、視野を広げて見守りをするよう努めたい。 今年度は秋から冬の間、全国的にもインフルエンザが流行した。そのため地域で流行している感染症や、園での罹患数をしっかりと把握し、必要に応じてメール配信にて注意喚起をしたことにより家庭での視診をきちんとする保護者が増えたように感じる。 年中組においては、外部業者に食育指導を実施していただいた。食べ物の3つの栄養グループを知ったことで、好き嫌いの多かった子どもも、食べ物のバランスを意識する大切さを知るきっかけになった。	
広報	今年度ホームページのレイアウトを変え、初めての保護者が必要な情報を見つけやすいよう変更した。問い合わせの際の質問内容もホームページを見てもらいながら伝えることもできた。また、ブログは今年度からタグ付けを行うようにし、タイトルも内容が分かりやすいように設定することで見やすくなった。 入園を検討されている方に対しては引き続き公式LINEを活用した。特に見学会、説明会の前は配信数を増やし、申し込みに繋げるようにした。配信内容も最近の園での様子だけでなく、預かり保育や課外教室などの制度についても情報として提供するようにした。また、ポスターも例年よりも長い期間掲示したため、保護者の目につくことが増えた。 MEO（マップエンジン最適化）については、目黒区内で1～3位を維持できていることから知名度の向上を実感しており、説明会の参加人数も前年度よりわずかながら増加した。しかし、出願数を減らした状況を踏まえると、今後は、本園の教育方針に合う家庭へのアプローチが必要な段階に来ていると感じる。	A
管理運営	行事毎の係を中心に内容の検討や準備を行い、職員会議を通し情報共有・運営を実施した。大まかな流れに対してルーティン化したことで準備や当日の運営が随分とスムーズになってきた。内容については、いつも同じにならないようその年の園児の状態で判断したい。 危機管理の面では、防災訓練を月に1回の頻度で実施した。教職員間の動きは理解できているため、自由遊び中など、どんなタイミングでも対応できるように訓練を重ねていきたい。 また実際の状況を想定し、より具体的な避難方法を検討し、また災害だけでなく防犯面についても今後訓練が必要であると感じる。	A
教育活動 英語	年長組を対象とした英語の時間を、今年度も本学園のネイティブの英語教師により実施した。歌やゲームなど、クラス活動と同じような内容で英語を用いて行っているのので、子どもたちは抵抗感なくスムーズに活動に参加することができた。英語の時間後も引き続き遊びや日常生活に取り入れられる内容を検討したい。	A
教育活動 体操教室	カワイ体育教室の講師の指導のもと、運動機能向上や、集中力を養うため課内で体操の時間を設けた。年長組では年間21回、年中組では年間10回、園庭または遊戯室にて、かけっこを始め、器械体操運動（マット、鉄棒、とび箱）や道具を使った運動（ボール、縄跳び）を実施した。 運動に対しての得意不得意は見られるものの、身体を動かすことの楽しさや心地よさを感じたり、相談したり応援したりすることで協調性も育まれる機会となり、意欲を持って取り組んでいる様子が見られた。	A
教育活動 リトミック	カワイ音楽教室の講師の指導のもと、年少組においてリトミックを実施した。普段の保育者と違う先生との関わりに子どもたちは期待を持って取り組み、楽器に触れることや音を聞いて体を動かすことに楽しみ活動していた。また、講師によるピアノ演奏を鑑賞する時間は目を輝かせながらとても嬉しそうに聴き	A

	いつている姿が見られ、音楽への興味を駆り立てる時間となった。	
--	--------------------------------	--

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和7年度 学校関係者評価結果

評価項目	評 価
保育の計画性	アジサイの観察や伝統行事を通じ、実物や本物に触れる体験重視の教育が、子どもの深い理解や季節感の習得に繋がっていると思う。また、学んだことを家庭で自慢げに話すこともあり、知識が定着しているのを感じる。制作活動では子どもの主体性を尊重し、素材を自由に選ばせたり考えさせたりする問いかけがあり、集中力や自信を育む環境が整っていると感じる。行事の準備も計画的で、子どもたちがゆとりを持って取り組んでいると思う。デジタル教育やAIロボット「LOVOT（ラボット）」の導入は新しい挑戦として期待しているが、具体的な活動内容がもっと見えると嬉しい。先生方の創意工夫が、子どもたちの意欲的な登園と確かな成長を支えていると感じている。
保育の在り方 幼児への対応	園全体で子ども一人ひとりの個性を深く理解し、寄り添ってくれる姿勢がとても心強い。担任だけでなく、園長や他クラスの先生まで名前や特徴を把握してくれていて、組織全体で見守る一体感のある保育に大きな安心を感じている。友達とのトラブルや登園時の不安に対しても、性格に合わせた具体的な助言やサポートがあり、個性を潰さずに集団へ順応させる指導が行き届いていると思う。保護者との連携でも、悩みを迅速に共有しアドバイスをくれるのがあるがたい。先生方の手厚い関わりが、子どもの挑戦心や対人能力を伸ばしてくれていると思う。
保育者としての資質 や能力・良識・適正	先生方がプロ意識を持ち、外部研修や専門誌を通じて常にスキルアップに努めていると感じる。多忙な中でも子ども一人ひとりを深く把握し、真っ直ぐに向き合う高いモチベーションには、保護者として大きな信頼を置いている。トラブル時の正直な報告や、家庭で役立つ具体的な助言、愛情深い接し方は、園全体の明るい雰囲気作りにも繋がっていると思う。先生方の高い専門性が子どもの成長を支えてくれていると感じる一方で、研修の具体的な中身についても、機会があればぜひ知りたいと思っている。
保護者への対応	日常の些細な出来事や成長の様子を、お迎えの時や電話で細やかに共有してくれるのが、大きな安心感に繋がっている。特にバス通園をしている子どもや園の話をあまりしない子どもを持つ親にとって、積極的な状況報告や怪我への丁寧な対応は、園での姿を具体的にイメージできる貴重な機会だと感じている。担任だけでなく、他クラスや事務、バスの先生の間でも情報共有が徹底されており、園全体で見守ってくれている安心感がある。面談などの個別相談にも柔軟かつ誠実に対応し、良い点だけでなく課題も伝えてくれる姿勢に誠実さを感じている。
地域の自然や社会と のかかわり	目黒の地域性を活かした園外活動は、子どもの記憶に残る貴重な体験として素晴らしいと思う。さつま芋の苗植え・収穫体験がなくなるのは残念だが、不動尊の散策や近隣小学校での運動会など、地域と触れ合う機会があるのは嬉しい。公共の場でのマナー指導をルール学習の実践の場とする教育は、子どもたちにとって非常に有益だと感じる。都心という限られた環境の中で、自然や地域の人と関わりながら、子どもたちが街の活気の一部となるような交流がこれからも続いてほしいと願っている。
保健衛生	園内が常に清潔に保たれていて気持ちが良い。手洗いうがいの習慣化や熱中症対策など、園での保健衛生指導が子どもの行動にしっかり反映されていると感じる。手洗いの歌や外部講師による食育指導は子どもの印象に強く残っていて、家庭での実践や食への意識向上など、確かな教育効果を実感している。感染症流行時のメール配信は、予防や受診の目安として非常に助かっている。学級閉鎖時の柔軟な預かり対応はありがたいが、感染ピーク時の預かり保育での密度の高さについては、少し気になるところではある。
教育活動 英語	ネイティブの先生との交流を通じ、英語を身近に感じる貴重な体験ができていると思う。歌やゲーム、身体を動かす活動を通じて楽しみながら学ぶスタイルは、子どもの苦手意識をなくし、自然に英単語が出るような良い影響を与えてくれていると感じる。すでに英語を習っている子には内容が易しいかもしれないが、リラックスした環境で「英語＝遊び」として触れ合えるのは、国際感覚を養う第一歩として良いと思う。安心でき

	る場所で異文化に触れる機会があるのは、将来の学習の土台を作る有意義な取り組みだと感じている。
教育活動 体操	専門の先生による体操指導は、自宅や普段の遊びでは難しい多様な動きを経験できる貴重な機会だと感じている。マット運動やボール遊びなど、年齢に合わせた種目に挑戦することで、スポーツの楽しさを知り、自分から練習するような意欲や自主性が育まれていると思う。また、クラス全員で取り組む活動は、技術だけでなく集団のまとまりや思いやりの心を養う場になっていると感じる。設備が整っているおかげで、運動の得意不得意を多角的に把握できるのも大きなメリットだと思う。
教育活動 リトミック	専門の先生によるリトミックや生演奏に触れる体験は、音楽への興味を強く引き出してくれていると思う。目の前で奏でられるピアノの音に合わせて体を動かす活動は、音感やリズム感を養うだけでなく、新しい友達を作るきっかけや感性を磨く機会になっていると感じる。園での活動を機に、家で歌い踊ったり楽器を習いたがったりするなどの意欲的な変化が見られて嬉しい。実施日の予定を事前に知りたいという思いはあるが、本物の音に触れ、心を開放して表現する楽しさを知る時間は、子どもの豊かな成長を支える最良の経験としてこれからも継続してほしい。

令和8度の改善取組項目及び方策

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
保育の計画性	各学年での定期的な会議で、実際の子どもたちの様子をもとに、年間指導計画で目標と掲げている姿へ近づけられるよう短期的、中期的な指導計画を立てる。 必要な教材の準備や環境設定など、反省を重ねながら計画する。	月案・週案 職員会議
保育の在り方 幼児への対応	保育者として、子どもたちにどのように育ってほしいかの願いを持ちながら、昨今の家庭のニーズや状況など、子どもたちが置かれている状況を意識した関わりができるようにする。	学年会議 職員会議 主任会議
保育者としての資質 や能力・良識・適正	保育者それぞれの価値観や考え方を尊重し、多角的な視野で物事を考えられるよう、話し合いの時間を多く設け、様々な意見の中から、状況に応じた対応策を見出す。 新しい事へ挑戦する意欲を持ち、外部研修や、保育誌等の情報にアンテナを張り巡らせ、活動に取り入れていく。	園内研修 目黒区の研修会 外部の研修
保護者への対応	行事や規則等については正確な情報を伝えられるよう、保育者間の共通理解を徹底する。 保育内容について話す際も本園の教員である責任感を持って、誤解のないように伝えることを心掛ける。 保護者とコミュニケーションをしっかりと取り、何を求めているか汲み取るようにする。	学年会議 職員会議 主任会議 朝礼 報告
家庭支援	引き続き預かり保育の利用人数は多くなることが予測されるため、預かり保育中における園児の過ごし方の検討や、課外教室の相互利用の際に発生する伝達ミスを防止する対策を検討し、実践していく。 適宜保護者アンケートを取り、対応できるものはないか視野を広げていく。	主任会議
地域の自然や社会と のかかわり	園外保育での約束事などその時だけでなく、身につくような声掛け、活動をしていく。 また園として、「地域の中にある幼稚園」という開けた活動を取り入れていきたい。	年間行事に準ずる
保健衛生	引き続き、感染症の情報など養護教諭との情報共有を行い、保護者に発信や子どもにわかりやすい衛生指導を検討していく。	保健計画予定に準ずる
広報	公式 LINE を有効に使い、園児募集期間にはメッセージの配	配信時の確認

	信数を増やし、情報発信の強化を図る。 本園の教育方針がどのニーズに合っているかよく分析し、対象を明確にした上で知名度を高めていく。	主任会議
管理運営	委員会や係など役割を決め、定期的な会議の中で情報共有を行う。	委員会・係等会議
新規取り組み	デジタル教育が3年目に入るため、全学年がカリキュラムとして行うようになる。単なるクラス活動にとどめるのではなく、自由遊びの中に取り入れられる流れを各学年で話し合って進めていきたい。	学年会議 職員会議 主任会議

以上